

# 令和2年度 事業計画書

公益財団法人ふるさといわて定住財団

内閣府の月例経済報告(2月20日発表)では、国内の「景気は、輸出が弱含むなかで、製造業を中心に弱さが一段と増した状態が続いているものの、緩やかに回復している。」とし、「先行きについては、当面、弱さがのこるものの、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待されるが、新型コロナウイルス感染症が内外経済に与える影響に十分注意する必要がある。」としている。また、県内では、「県内景気は、一部に弱い動きが見られるものの、緩やかな回復傾向が続いている。」(2月7日県発表)としている。

こうした中、県内の雇用情勢は、令和2年1月の有効求人倍率は1.26倍と夏以降若干低下傾向にあるものの、引き続き高い水準を維持している。

令和2年3月卒業予定者の就職内定率は、大学が前年度比1.3ポイント増の88.7%、専修学校が前年度比2.0ポイント増となっている。逆に高校は1.7ポイント減となっている。次に、県内就職希望者数の割合をみると、大学が約4割、専修学校が約5割、高校が約7割と前年並みとなっている。

令和2年3月県内卒業予定者の内定状況 (令和2年1月末現在：同年2月28日岩手労働局公表)

種別	県内外	就職希望者数	内定者数	内定率	前年比
大学	全体	1,703人	1,511人	88.7%	+1.3
	うち県内	707人(41.5%)	623人	88.1%	+1.2
専修学校	全体	1,521人	1,331人	87.5%	+2.0
	うち県内	775人(51.0%)	665人	85.8%	+2.0
高校	全体	2,917人	2,804人	96.1%	-1.7
	うち県内	2,007人(68.8%)	1,910人	95.2%	-2.0

## 《令和2年度の主要事業》

### 1 就職イベントの開催

県内外ともに有効求人倍率が高止まりする中、財団が主催する就職イベントについては、参加企業数が増加してきているものの、学生等求職者側の参加者は依然として減少傾向にあります。

このため、参加者の増加に向け、イベント自体の魅力の創出と併せ、開催時期に応じた会場や日程の見直し、県外からの参加者に対する交通費の支援などを行います。

#### (1) いわて就職マッチングフェア(県内)

若年者等の県内就業の更なる促進を図るため、昨年度に引き続き1,700人の参加者を目標に、いわて就職マッチングフェアを5回開催します。

開催に当たっては、参加者の利便性を考慮し、試行的に会場を滝沢市のアピオから盛岡駅近くのいわて県民情報交流センター(アイーナ)に変更し、3回実施します。

アイーナでの開催に当たっては、アピオに比べ会場が狭いことから、複数日に開催するなど多くの企業の参加希望に応えるほか、企業の出展希望日にも配慮するなどきめ細かな対応を心がけます。

また、開催時期を5月の連休や8月の盆近くに設定することにより、県外からの参加者の増加を図ります。このため、県外への周知活動にも一層努めることとし、特に、仙台圏については、大学等を訪問するなどし、参加者の増加に向けた活動を強化します。

なお、令和3年度卒業予定の学生に対しては、現時点で就活ルールが不透明であることから、令和3年は例年通りの開催時期とします。

令和2年度			令和元年度		
回	開催日	開催場所	回	開催日	開催場所
1	III 令和2年5月1日(金)～3日(日)	いわて県民 情報交流 センター アイーナ	1	II 令和元年5月18日(土)	岩手産業文 化センター アピオ
2	IV 令和2年8月11日(火) ・12日(水)		2	III 令和元年9月7日(土)	
3	V 令和2年12月13日(日)		3	IV 令和元年11月30日(土)	
4	I 令和3年2月20日(土)	4	I 令和2年2月15日(土)		
5	II 令和3年3月13日(土)	5	II 令和2年3月20日 (金・祝)		

※網掛けは、令和3年3月卒業予定の学生が主な対象のイベント

## (2) 岩手県U・Iターンフェア（県外）

首都圏からのU・Iターンを促進するため、昨年度に引き続き200人の来場者を目標に、岩手県U・Iターンフェアを東京都内で2回開催します。

今年度は、求職者側の参加者増を図るため、フェアIは多くのU・Iターン希望者が集まる移住フェア（県主催）と併催し、フェアIIは企業プレゼンテーションや県・市町村の移住・定住施策の紹介など参加者にとってより魅力のあるイベントとなるよう改善していきます。

また、岩手県U・Iターンセンターや岩手U・Iターンクラブ加盟大学等の協力を得ながら周知活動を強めるほか、県や市町村等が有する首都圏の人的ネットワークの活用を図っていきます。

令和2年度			令和元年度		
回	開催日	開催場所	回	開催日	開催場所
1	I 令和2年11月8日 (日)	東京交通会館	1	I 令和元年7月20日 (土)	赤坂インター シティAIR
2	II 令和3年2月11日 (木・祝)	御茶ノ水 ソラシティ	2	II 令和2年2月8日 (土)	御茶ノ水 ソラシティ

### (3) イベントの魅力向上

求職者や企業が参加したくなる、あるいは実際に参加してみて有益だったと思えるよう、開催時期や会場に応じた企画を実施することにより、イベントの魅力向上に努めます。

#### ア 求職者向け

県内企業への理解促進のため、企業プレゼンテーションのほか県内の企業や業界の魅力をわかりやすく伝える業界研究セミナー等を行います。

また、企業面接等に当たっての身だしなみについて留意すべき点などを学ぶセミナーも行います。

#### イ 企業向け

県内企業の採用力を強化するため、求職者への接し方、情報発信の仕方、受け入れ態勢整備などについて学ぶセミナーを行います。

#### ウ 関係機関向け

当財団イベントには多くの企業や求職者が参加しており、労働者や企業への支援施策や制度を周知する場として効果的であることから、国、県、関係機関に対して当財団イベントの場の活用を働き掛けていきます。

### (4) 就職活動交通費の支援

県内イベントへの参加者増を図るため、新たに県外からいわて就職マッチングフェアに参加する際の交通費を支援する仕組みを導入します。

令和2年度は、下記により試行的に実施することとし、来年度以降は、今年度の成果等を踏まえ、収支見込みなども勘案しながら、県のU・Iターン就職促進施策のさらなる充実に資するよう、支給対象となる就職活動や支給額について見直しを進めます。

(仕組みの内容)

#### ア 支給対象者

岩手県外に居住する者で、県が新たに構築する岩手県U・I・Jターン等就業者支援マッチングサイト（以下「新マッチングサイト」という。）に登録した求職者

#### イ 支給対象となる就職活動

ふるさといわて定住財団が開催する県内マッチングイベント「いわて就職マッチングフェア」への参加

#### ウ 支給額

(ア) 東北地区居住者（本県を除く。） 5,000円

(イ) 東北地区以外の居住者 10,000円

#### エ 支給限度

一人1回を限度

#### オ 申請方法

財団ホームページから交通費支給申請書入手し、必要事項を記載の上、郵送やメール等で申請

#### カ 確認及び支払方法

- ① いわて就職マッチングフェアの受付票でイベント参加の事実を確認
- ② 新しいマッチングサイトへの求職者登録を県に確認
- ③ 申請者の指定する口座に振込み

## キ 周知方法

ホームページのほか、ポスター・チラシ、新聞広告等により幅広く周知

## 2 就職支援情報の収集及び提供

岩手県出身者の地元志向は強いとされているものの、岩手県内企業の知名度が低いことや大手就職支援サイトへの依存度が高いこと、首都圏等の大手企業の採用活動が早期化していること等から、県内企業が学生の選択肢に乗らないうちに就活が終わってしまう傾向があります。

県内の学生等若年求職者に県内企業が就職先として認知してもらえるよう、中学・高校生世代から子供の進路に大きな影響を与える親世代まで様々なアプローチを行っていきます。

### (1) インターネットによる情報発信

学生等求職者は、就職情報をインターネットにより収集する傾向が益々強まっていることから、ネットでの情報発信を更に充実・強化します。

#### ア 企業情報の充実

財団のホームページには、現在 900 社を超える県内企業が正社員に関する求人情報を掲載しており、県内企業の魅力や採用情報を学生等若年求職者に発信するうえで最も有効なサイトとなっています。このため、企業ページをより魅力あるものとするよう登録企業への働きかけを強め、内容の充実を図ります。

また、いわて就職マッチングフェアでの企業プレゼンの様子は、その場で動画に編集し、フェアの会場内で放映するとともに財団ホームページにアップしていきます。

#### イ 県内就職情報の充実

財団以外の就職支援関係機関や団体が行う県内イベントの情報については、これまでも把握した都度新着情報として掲載をしてきましたが、県内の就職イベントがもれなく旬な形で更新されるよう関係機関・団体に働きかけながら充実に努めます。

#### ウ 県の新しいマッチングサイトとの連携

県が新たに構築するマッチングサイトは、求職者と企業がウェブサイト上でマッチングできる仕組みとなっており、今後多くの企業や求職者の登録が進み、活用されるよう、財団登録企業や財団主催イベントに参加した求職者に対して新マッチングサイトへの登録を働きかけていきます。

### (2) 財団ホームページへの誘引の強化

財団ホームページへの訪問やアクセス数の増加に向け、次の方法でさらなる誘引を図っていきます。

#### ア 財団紹介カードの作成・配布

財団ホームページの QR コードを印刷した名刺サイズの財団紹介カードを作成し、県内の大学・専門学校、岩手 U・I ターンクラブ加盟大学、県内ハローワーク、岩手県東京事務所等に配布します。また、QR コードは、イベント周知に係るポスター・チラシ、新聞広告等あらゆる機会に活用していきます。

#### イ 財団周知ポスター電車広告

財団イベントの周知ポスターは盛岡駅等主要駅に、財団自体を周知するポスターは、JR 東北本

線、IGR いわて銀河鉄道、三陸鉄道への電車内にそれぞれ掲出してきましたが、今年度も継続します。

### (3) 求職者の親世代等の目線にも訴える情報の発信

県内就職を促進するためには親や親戚からの後押しも有効であることから、財団主催イベントについては、県内新聞への広告や生活情報系のテレビ・ラジオ番組への情報提供を継続するとともに、ポスターについては、県内主要駅に加え、スーパー等の商業施設など多くの人が集まる施設へも掲出します。

また、岩手県U・I ターンフェアについては、首都圏在住者への呼びかけが効果的であることから、今年度においても地元紙への掲載を継続します。

さらに、地元紙の中には、求人に関する企業広告を企画する際に、財団主催イベントの紹介も併せて行う事例が出てきたことから、今年度においても、同様の広告が行われるよう新聞社側に働きかけていきます。

## 3 関係機関との連携

### (1) 岩手県内企業紹介キャラバン

いわてで働こう推進協議会では、学生及び教職員の県内企業への理解を深めることを目的に県内企業が大学等を訪問し、学生との交流を図る「岩手県内企業紹介キャラバン」を実施しています。学生が就職活動に入る前の1～2年生時から県内企業への理解を深め、学生の就職先としての選択肢に乗ることは、県内就職の促進にもつながることから、財団登録企業に対して同キャラバンへの参加を呼びかけるなど積極的に協力していきます。

### (2) ふるさと発見！大交流会 in Iwate

学生の地元定着を図ることなどを目的に、これまで岩手大学 COC 推進室等が主体となって実施してきた「ふるさと発見！大交流会 in Iwate」は、昨年度で終了し、今年度は、いわてで働こう推進協議会が主体となって実施することとしており、引き続き積極的に協力していきます。

### (3) ジョブキッズいわて

故郷を楽しく学べる空間や子育てしやすい環境づくりを演出し、子供たちが、将来ふるさと岩手で働くことへのあこがれや夢へとつながるよう、職業意識育成の場を提供し、若年層の県内定着率を高める「ジョブキッズいわて」事業に参画します。

ア 事業名：ジョブキッズいわて

イ 企画運営：ジョブキッズいわてコンソーシアム（仮称）

【構成員（想定）】岩手県 ふるさといわて定住財団 賛同する市町村 県教育員会 岩手県商工会議所連合会等経済団体 岩手大学等

【事務局】テレビ岩手

ウ 事業期間：2020年7月～8月（予定：夏休み期間を中心に開催）

## エ 事業概要

ジョブキッズとなった児童が、県内の気になるジョブアトラクション（お仕事体験）を予約し、体験

【ジョブキッズ会員】ジョブキッズいわてWEBから会員登録。会費は親子2人1組1,500円

【広報展開】テレビCM テレビ番組でジョブアトラクションの魅力紹介 教育委員会を通じて  
小学校にチラシ配布 ジョブキッズいわてWEBでの情報発信

### （4）グローバルキャリアフェア

県内大学の留学生等を対象としたグローバルキャリアフェア（公益財団法人岩手県国際交流協会等主催）は、県内企業の外国人雇用の促進に意義ある取組であり、今後さらなる進展が期待される分野であることから、引き続き、今年度も相乗効果を狙い、昨年度と同時期に開催されるマッチングフェアVと併催します。

## 4 出稼ぎ就労者の援護

出稼ぎ就労者が減少する一方、出稼ぎ中の事故が毎年のように発生しています。このため、市町村を通じて出稼ぎ互助会の加入促進に努めるほか、互助会員の事故防止への意識向上にも努めます。

また、出稼ぎ関連の統計や情報を県と共同で編集・整理し、関係者の取組を支援します。

### （1）傷病等事故見舞金の給付

互助会員が就労先で災害、疾病により死亡又は休業した場合、傷病等事故見舞金を給付しています。引き続き、市町村窓口で見舞金申請の手続きが的確に行われるよう支援します。

### （2）「出稼ぎの葉」の発行

互助会員に対する意識向上と健康で安全な就労を目的として、病気や災害防止の心得などを掲載した「出稼ぎの葉」を作成して市町村を通じ互助会員に配付します。

### （3）出稼ぎ関係情報の提供

出稼ぎ関係の統計や市町村の関連施策などを載せた「岩手県における出稼ぎの実態」を県と共同編集し、市町村等に配付します。

## 5 法人の運営

### （1）安定した財源の確保と適切な資産運用

当財団は、平成30年度決算ベースで、基本財産運用益等債券運用収入で経常費用40,111千円の約93%を賄っています。財団の諸事業を積極的に展開していくため、資産運用規程に基づく適切な資産運用により中長期的に安定的な財源を確保しつつ、経費縮減と業務の効率化に努めます。

本年度の資金運用計画は別添のとおりです。

## (2) 計画的、効率的な事業運営

「大学等訪問調査」やイベントごとに実施したアンケート調査をもとに、きめ細かくイベントの運営改善につなげていますが、引き続き、顧客である企業側や大学生等求職者側双方からのニーズ把握に努め、イベントの開催方法等の改善に結びつけます。特に今年度は、アイーナでのいわて就職マッチングフェアの開催や就職活動交通費支援を試行的に実施することとしており、アンケート結果等を基に運営改善に努めることとしています。

また、昨年度、当財団の経営状況及び中期経営計画の内容の妥当性などについて検証することを目的に、有限責任監査法人トーマツの公認会計士による外部経営調査が行われ、イベント中心の業務見直しや成果指標の設定などについて指摘があったことから、中期経営計画の見直しなどについて県との協議を進めます。

## (3) 組織パフォーマンスの向上

業務執行理事である専務理事が事務局長を兼務し、正職員の事務局次長 1 名、就職支援コーディネーター3 名（無期労働契約職員 1 名、有期労働契約職員 2 名）の計 5 名の体制で業務を運営しています。経験が浅い若手職員が多く、経験が蓄積されにくいことなどの課題があることから、職員の資質向上のための各種研修への参加、無期労働契約への転換や正職員への登用、職員の意欲や能力を引き出す適切なマネジメントなどにより、組織パフォーマンスの向上に努めます。

## (4) 理事会運営

定時理事会を例年どおり 5 月、10 月、3 月に開催します。

## (5) 評議員会運営

定時評議員会を例年どおり 6 月に開催します。

## <別紙>

# 令和2年度 資金運用計画

## 1 国内債券市場の動向

2020年1月の日銀の「経済・物価情勢の展望」では、「2%の物価安定の目標の実現を目指し、これを安定的に持続するために必要な時点まで、長短金利操作付き量的・質的金融緩和を継続する。」とされており、引き続き現在の金融緩和政策が維持される見込みです。

一方、アメリカでは、2018年まで比較的穏やかなペースで利上げが行われ、金融引き締めが行われてきたところですが、米中貿易摩擦激化などのリスクによる景気減速を予防するため、2019年は、一転して緩和方向に転換し、3段階で0.75%の利下げを行い、持続的な経済成長を維持しています。2020年1月のFOMCでは、現行水準を維持する決定がなされ、当面継続する見込みとされています。

国内の債券市場の状況を地方公共団体金融機構債の1月の新発債で昨年同期と比較した場合、10年債が0.155%→0.155%と横ばい、20年債が0.534%→0.354%と低下しています。

財団の資金運用においては、これら経済情勢、特に債券市場の動向に留意して的確に対応していく必要があります。

## 2 令和2年度資金運用の基本方針

### (1) 安全確実な資金運用

令和2年度の債券市場は、異次元の金融緩和政策が維持される中で、金利水準も現在の極めて低い水準で推移し、上昇を期待する状況にはないと見込まれます。また、これまでの運用により、当面、一定の利息収入が確保されることから、今年度はあえてリスクを負わずに、安全確実な運用を心がけていきます。

なお、変化の激しい経済情勢の中で、日銀の金融政策の変更、債券価格や金利の動向を注視しながら、環境変化が予測される場合は、機動的に対応していきます。

### (2) チェックリストの活用

平成29年に作成したチェックリストに基づき、下記項目について審査するなど適切な運用に努めていきます。

ア 財産の運用対象であるか（資産運用規程(以下「規程」とする)第5条関係)

イ 発行債券は格付け基準を満たしているか（規程第6条関係）

ウ 保有割合の制限内か（規程第7条関係）

エ 決定の権限内か（規程第8条関係）

オ 取扱証券会社は基準を満たしているか（規程第9条関係）

カ 利率がより高いか

キ 売却益があるか

ク 帳簿上の損益はどうか

ケ 償還時期の分散に寄与するか



### (3) 資金運用に関する習熟

現在のような低金利が当面継続されるという状況下で、どのような資金運用が適切か、証券会社主催セミナーへの参加や証券会社営業担当との日常的な意見交換などを通じて、資金運用に関して習熟に努めます。